

たまには、こんな動物園でデートはいかがですか。

「冬の動物園」展を開催

展示会をテーマとしたデザートセットやカクテル等も期間中ご提供

パークホテル東京（汐留メディアタワー内）は、25階アトリウムに於いて、日本の四季を楽しむ展示会「ART colours(アートカラース)」を年4回行っております。その第11弾として、2014年12月15日（月）から2015年3月1日（日）まで、「冬の動物園」展を開催いたします。

動物たちも見ている私たちも、じっとしていると凍えてしまいそうな季節です。でもこちらの動物園は暖かなパークホテル東京のアトリウムの中。現在活躍中の8作家（安元亮祐、室麻衣子、小飯塚祐八、柳ヨシカズ、呉亜沙、金丸悠児、住吉明子、西村沙由里）が制作した様々な動物たちの作品をあつめ、ゆったりとアートの世界の動物園を楽しんで頂けます。会場のアトリウムは25階から34階まで吹き抜けとなっており、まるで本当に屋外の公園のような佇まい。そこでは、作品をご覧いただきながらデザートセットやお茶などもお召し上がりいただけます。また、夜には、高さ約30mの壁面に映し出される、展示作品をモチーフとしたプロジェクション・マッピング映像も投影いたします。また特別展示として、当ホテル31Fフロアのウィンドウには、池田満寿夫と谷川晃一の作品も展示いたします。

この冬限定の動物園で、クリスマス&ニューイヤーをアートになった動物たちと賑やかに愉しくお過ごしください。

■「冬の動物園」展 概要 ■

【期 間】2014年12月15日（月）～2015年3月1日（日）無休
11：30～22：00 ※プロジェクション・マッピングは暗くなってから
臨時イベントにより会場内入場の時間制限などを設ける場合も有。

【会 場】パークホテル東京 25F アトリウム、31F

【料 金】入場無料

【出品作家】安元亮祐、室麻衣子、小飯塚祐八、柳ヨシカズ、
呉亜沙、金丸悠児、住吉明子、西村沙由里

【31F 特別展示】池田満寿夫、谷川晃一

【協力】不忍画廊、Katsumi Yamato Gallery、TEZUKAYAMA
GALLERY、ギャラリー新居東京、フヤマアート

【総合プロデュース】creative unit moon (<http://www.moooon.jp>)

【映像制作】antymark (<http://antymark.com/>)



安元亮祐「海から来た猫」

■展示会をテーマとしたお料理等 ■

アート ラウンジ より

<アート ラウンジ> デザートでアート

デザート「海から来た“白い”猫」

安元先生の作品をイメージした、猫の形がかわいらしいデザート。

ブランマンジェにベリー系のソースの組み合わせは絶品です。

[期間] 2014年12月15日(月)～2015年3月1日(日)

[料金] 喫茶時間 14時30分～17時 1,800円 コーヒー付き

ディナータイム 17時30分～22時 1,200円 単品

※料金は税金・サービス料含む



「海から来た“白い”猫」

日本料理 花山椒 より

「京壬生菜の冬鴨治部煮のせ小鍋仕立」

京懐石の伝統を受け継ぐ花山椒からは、鴨が登場。京料理に欠かせない壬生菜と鴨のお鍋は、寒い冬の日にはぜひお勧めしたい一品です。

[期間] 2014年11/1(土)～12/28(日)

[料金] 1,782円(税・サービス料含む)



「京壬生菜の冬鴨治部煮のせ小鍋仕立」

タテル ヨシノ ビズ より

前菜「フリユイド メール(海の幸の盛り合わせ)」

「海の果実」の名を持つ、フランス冬の風物詩。海老、雲丹や蟹 etc…

この季節ならではの海の幸をどうぞ召し上がれ。

[期間] 2014年12/15(月)～2015年3/1(日)

ただし、12/22～12/25、12/31～1/4を除く

[料金] 1人前 2,800円～時価(税・サービス料含む)

※お料理の内容は、仕入れ状況によって変わります

※写真は2人前



「フリユイド メール」

ザ ソサエティ より

カクテル「ハニー・ベアー」

淡雪に見立てたスムージーカクテル。たっぷりの蜂蜜とバニラの香り。

熊笹の飾りを添えて、新雪の森の中をイメージしました。

[期間] 2014年12/15(月)～2015年3/1(日)

[料金] 1,500円(税金・サービス料含む)



「ハニー・ベアー」

《展示作家:25F アトリウム》

安元亮祐(平面・立体)Ryosuke YASUMOTO1954～

姫路市生まれ。筑波大学付属聾学校美術専攻科中退。具象絵画の登竜門「安井賞展」入選、《昭和会賞》受賞。「音のない世界」で制作しながら、リズムやシンフォニーなど音楽性を感じさせる作品は、一般の美術ファンとプロの美術関係者双方に支持されている。身近な素材(雑誌の切抜き、草木の根、ダンボール、たばこの吸い殻など)を絵具代わりにしたペインティング、針金・古木等を芯に布や和紙などを巻きつけて彩色したオブジェなどを制作している。

安元亮祐「赤い予感」



室麻衣子(立体・平面)Maiko MURO 1974～

東京都生まれ。'96 獨協大学外国語学部英語学科卒業。1997～約4年間メキシコに滞在、メキシコ国立芸術大学ラエスメラルダなどでアートを学ぶ。帰国後、KOBATAKE工房にて彫刻を学び「ボーダーレス」をコンセプトに、色鮮やかな色彩と陶をはじめとする様々な素材で作品(立体／平面)を制作。各地で個展・グループ展を多数開催。メキシコ人アーティストとのアニメーションなどのコラボ制作にも取り組んでいます。

室麻衣子「messengers with cage V」



小飯塚祐八(平面、レリーフ立体)Yuya KOIZUKA1975～

福岡県生まれ。多摩美術大学版画専攻卒。高知国際版画トリエンナーレ展《佳作賞》受賞、札幌国際版画ビエンナーレ展《スポンサー賞》受賞、プリント21 グランプリ展《スポンサー賞》受賞、日本版画協会展《佳作賞》受賞。ありふれた日常に着目し、登場する人・動物・風景など、すべて身近なところから引用し、登場させる。ここ最近では家族も増え、ますますバラエティ豊かな作品を制作している。

小飯塚祐八「牛乳ちょうだい」



柳ヨシカズ(平面)Yoshikazu YANAGI1977～

「TOKYO WONDER SEEDS」(トーキョーワンダーサイト渋谷)出品。若手現代作家として国内外で個展、グループショー企画に参加する他、「アートフェア東京」「ART OSAKA」「Asia Top Gallery Hotel Art Fair」などアートフェアにも多数出品している。「とても生真面目な性格」という作家自身が一番美しいと思う構図はシンメトリー。動物、子供、身近なモノ、風景などの画像をパソコンでシンメトリーな構図にした下絵を元に、キャンバスに油彩で丹念に描く。時間をかけて仕上げた美しいマチエールが特徴。

柳ヨシカズ「laughing bear」



呉亜沙(平面・立体)Asa GO 1978～

神奈川県生まれ。女子美術大学洋画専攻卒。東京藝術大学大学院油画専攻修了。「トーキョーワンダーウォール」(東京都現代美術館)、「上野の森美術館大賞展」<優秀賞>受賞、佐藤美術館、軽井沢ニューアートミュージアムでの個展など学生時代から活躍し続けている。2005～06 文化庁在外研修でニューヨークに1年滞在。自分(在日3世である)とは何者か、自分と他者との関係、アイデンティティについて考え続け、擬人化したウサギに置き換えて登場させ作品の中に表現している。

呉亜沙「Ancestor」



金丸悠児(平面)Yuji KANAMARU 1978～

神奈川県生まれ。東京芸術大学デザイン科卒業。2003年同大学大学院修士課程修了。活動として海外では2012年、13年ART TAIPEI(台湾)。2013年KIAF(韓国)。国内では全国百貨店、画廊、国内アートフェア等で個展多数。人気完売作家。ひび割れた絵肌は作家独自のもので、20回ほど丁寧に色を重ねモチーフになる動物の質感を表現する。2002年アーティスト集団C-DEPOT設立し代表をつとめ、社会における作家のあり方を追求している。

金丸悠児「メイズ」



.....
住吉明子(立体)Akiko Sumiyoshi1981～



千葉県生まれ。文星芸術大学美術学部ビジュアルデザイン科卒業後、2005年より本格的に作家活動を開始する。2008年に「第一回art_icle賞」グランプリ受賞。これまでに国内での個展、グループ展に多数出展。「アートフェア東京」、「ART OSAKA」、「YOUNG ART TAIPEI / 台湾」、「Korea International Art Fair / 韓国」など国内外のアートフェアにも多数出品している。動物と植物が一体となったような幻想的で愛くるしい生き物たちをモチーフに作品を制作。彼女のフィルターを介して生み出された作品たちは、どれも生命力に満ち溢れ、全ての生命を慈しむかのような作家のあたたかな視点を感じ取る事が出来ます。

住吉明子「minu」
.....

西村沙由里(平面)Sayuri NISHIMURA1988～



北海道・札幌生まれ。東北芸術工科大学・修士課程芸術文化専攻修了。幼少の頃より龍に魅せられ入学後も描くものは龍ばかり。好きなものはとことん描くべきとの教育方針で、数あるカリキュラムもすべて龍を描いた。卒業制作は優秀賞で大学院へ進学。古今東西の龍の研究を続け、自然を司る力のそのものとして龍を捉えた独自の「山形龍伝説」を修了制作に描いた。そんなことから、彼女のニックネームは「ドラコ」と呼ばれている。

西村沙由里「エネルギーと虚無の存在」
.....

《特別展示作家:31F》

.....

池田満寿夫Masuo IKEDA1934-1997



旧満州奉天市に生れ、長野で育つ。1966年ベネツィアビエンナーレ展でグランプリを受賞。初の小説『エーゲ海に捧ぐ』では芥川賞を受賞する。絵画、陶芸、彫刻、小説、エッセイ、映画監督など急逝するまで様々な分野でマルチな才能を発揮した天性のアーティスト。1965年、日本人二人目のニューヨーク近代美術館での個展など、国内外の多数の美術館で個展が開催。1997年、故郷・長野市に池田満寿夫美術館が開館、2012年には母校・長野高校に池田満寿夫記念ギャラリーがオープンとなった。

池田満寿夫「母子猿」
.....

谷川晃一Koichi TANIKAWA1938～



東京都生まれ。攻玉社高校卒業後、独学で絵画を学ぶ。1963年読売アンデパンダン展に出品、翌年初個展。三鷹市美術ギャラリー、伊丹市立美術館等での個展、練馬区立美術館等でのグループ展など全国各地で多数開催。1988年伊豆高原への転居を機にアニミズムに傾倒し画面は陽気でカラフルなものに変化する。画業に加え文筆業やアート・ディレクションなど多面的に活躍している。

谷川晃一「冬の手紙」
.....

<本件に関するお問い合わせ>

パークホテル東京 マーケティング部 広報：早乙女

Email : sotome@shibaparkhotel.com 〒105-7227 東京都港区東新橋 1-7-1 汐留メディアタワー

TEL: 03-6252-1111(代) FAX : 03-6252-1001 PHS : 070-5368-7440
